

●教科書検討の観点からみた内容の特色

※青字の「⇒(P.000)」は教科書のページ数です。

教科書検討の観点	内容の特色	本冊子の主な関連箇所
① 教育基本法及び学校教育法との関連		
⇒取り扱っている内容は、 教育基本法 に適合しているか。 教育基本法第2条 教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。 第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	我が国の国土及び世界の諸地域に関する 基礎的・基本的な知識及び技能 を確実に習得し、日本や世界の 地域的特色 を多面的・多角的に考察する態度を養うことで、幅広い知識と教養を身につけることができるようになっている。 ◆第2編第2章 世界の諸地域 ・第3編第3章 日本の諸地域 では、州・地方の 地域的特色 を確実に捉えられる構成になっている。まず、① 州・地方の概要を大観し 、そのうえで② 導入ページ で問いを立て、学習を見直し、③ 主題学習・動態地誌的学習 を進め、④ 単元のまとめ・ふり返し で問いを解決し、学びを振り返ることで、 単元全体で主体的・対話的で深い学びを実現 するようにしている。 ⇒第2編第2章(ヨーロッパ州/P.62-77など)、第3編第3章(近畿地方/P.202-217など) ◆ 地域的特色の理解に必要な教材を系統的に配置 するとともに、地図・写真・グラフなどの図版を豊富に掲載している。	⇒P.6 P.8-15 P.36 ⇒P.9 P.12-13
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	意欲的に学習に取り組めるように、学習のねらいを明確にし、 地理的な見方・考え方を働かせて思考力、判断力、表現力等の向上 を図りながら、学習の成果を実感できる構成になっている。また、地理と職業及び生活との関わりへの関心を高め、 勤労を重んずる態度 を養えるよう配慮している。 ◆教科書全編にわたり、 地理的な見方・考え方を働かせながら課題を追究したり解決したりする問い を豊富に設け、 主体的・対話的で深い学びが実現 できるようにしている。 ⇒巻頭3-4 ◆世界や日本の人々の生活場面や労働の様子を読み取ることができる写真を多数掲載し、 職業・生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度 を養えるようにしている。 ⇒P.30-39、52、78、85、138-139、197、198-199、213、222、224、257、270、288など	⇒P.6-7 P.12-13 P.16-17 ⇒P.12-13
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	多様性、人権尊重 などについての地理に関わる事象を豊富に取り上げ、 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる態度 を養えるよう配慮している。また、 公共の精神 に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう配慮している。 ◆教科書全編にわたり、世界や日本の 地域的特色 を捉える際に、 多様性、人権 を考える教材を豊富に取り上げている。 ⇒P.30-41、74、85、122、124-125、129、181、211、245など ◆第3編第1章 地域調査の手法 ・第3編第4章 地域の在り方 では、 自分の言葉で表現し、他者の考えを認め、そこから自分の考えを発展させる ことができるようになっている。 ◆第3編第4章 地域の在り方 では、地域の課題を見出し、地域の在り方を構想することで、 社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度 を養えるようにしている。	⇒P.30 P.33 ⇒P.24 ⇒P.24
第4号 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	世界や日本における 環境問題や環境保全、持続可能な社会、災害・防災 といった諸課題の現状と改善に取り組む人々の努力について考えさせる内容を随所に配し、 生命や自然を大切に する態度を養えるよう配慮している。 ◆グローバル化する国際社会において、 持続可能な社会 を作っていく上で取り組まなければならない様々な 地球的課題 や 地域の課題 を取り上げている。 ⇒P.45、95、111、175、239、271など ◆ 持続可能な社会、環境問題や環境保全 について、 系統立てて様々な角度から学習 できるようにしている。 ⇒巻頭1-2、P.66、72-73、102-103、106-117、126-127、173、181-183、209、246-247、250-265など ◆ 災害・防災 について 系統立てて学習 できるようにしているとともに、 具体的かつ実践的な活動 を取り上げることで、 生命や安全の確保に主体的に取り組む ことができるようになっている。 ⇒P.146-155、177、211、221、246-247、250-265など	⇒P.10 ⇒P.22-23 P.32 ⇒P.26-27
第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	我が国の 伝統と文化の特色 を広い視野に立って考え、 我が国や身近な地域を愛する心 を養えるよう配慮している。また、 国際理解 を深めることができる内容を豊富に取り上げ、 他国を尊重し、国際社会の平和と発展に貢献する態度 を養えるよう配慮している。 ◆我が国における 伝統・文化の現状と、それを守り未来に継承していく人々の取り組み について、随所で取り上げている。また、 現代文化 についても積極的に扱っている。 ⇒P.136-143、180-181、189、199、202-217、228-229、243、258-259、278-279など ◆世界の多様な文化の学習を通して、 文化の意義や影響を理解し、多文化共生社会の重要性を認識 できるようにしている。 ⇒P.30-41、59、100-101、112-113、122、124-126、129など ◆我が国と諸外国との関係、 国際協力、国際社会における支援、紛争解決や平和の希求 などの教材を豊富に取り上げている。 ⇒P.9、19-21、55、59、62-77、85-87、89など ◆ 日本の領土についての学習 では、 日本固有の領土である北方領土・竹島の領土問題を的確に取り上げる るとともに、 日本固有の領土である尖閣諸島には領土問題は存在しない ことを明記している。また、日本の領域をめぐる諸	⇒P.30-31 ⇒P.30-31 ⇒P.28 ⇒P.33

教科書検討の観点	内容の特色	本冊子の主な関連箇所
	課題の解決に向けて、どのような取り組みが必要かを考えさせる内容になっている。 ⇒P.18-21	
⇒取り扱っている内容は、 学校教育法 に適合しているか。	◆学校教育法第30条第2項に示された「 基礎的な知識及び技能の習得 」、「 課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等その他の能力の育成 」、「 主体的に学習に取り組む態度の育成 」が重視されている。	⇒P.6-15
② 学習指導要領との関連		
⇒取り扱っている内容は、 学習指導要領 に示す目標・範囲に適合しているか。	◆学習指導要領に準拠し、 基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図り、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせながら課題を追究したり解決したりする思考力、判断力、表現力等の向上 を図る学習を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な 公民としての資質・能力の基礎を育成 する内容になっている。	⇒P.6-15 P.16-17
⇒ 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着 を図るために、どのような 創意・工夫 をしているか。	◆本文は原則1授業時間=見開き2ページとし、この見開きで何を学ぶのが 学習課題 で明確に示されている。また、右ページの側注欄には 確認コーナー・表現コーナー が設けられ、基礎的な知識及び技能の確実な定着をねらいとした学習活動や自分の考えを説明させる問いが提示されており、習得した知識及び技能を用いて文章化・言語化できるようにしている。 ◆ 本文 は、十分な文字量を確保し、平易な表現で、地理的事象や地理的概念を丁寧に記述している。 ◆ 見方・考え方コーナー を設け、学習課題の解決に向けての手がかりとなる 地理的な見方・考え方の例 を示している。 ◆見開きページの右端に インデックス を設け、学習している単元を常にわかるようにして、全体の中に位置づけて理解しながら、学習を進めることができる。 ◆ 地理+α や 持続可能な地域をめざして では、地理的分野の学習を掘り下げる具体的な内容を取り上げて、理解を深めることができる。 ◆ スキルUP では、地理的分野の学習に必要な地理的技能を6種類に整理し、生徒の発達の段階に応じて 地理的技能を系統立てて習得 できるようにしている。 ⇒ スキルUP(一覧/巻頭9) ◆資料を用いた活動を示す 資料活用コーナー を設けており、必要な情報の読み取りなどの技能を高めることができる。	⇒P.12-13 P.36 ⇒P.12-13 ⇒P.16-17 ⇒P.12-13 P.34 ⇒P.10 P.13 P.23 ⇒P.25
	◆教科書内で関連する事項どうしを結び付ける 参照ページ で、多面的・多角的な見方をする中で、学習内容の定着を図っている。 ◆ 連携コーナー では、小学校社会科の学習や歴史的分野・公民的分野の学習とのつながりが示され、生徒の理解を確かなものにするとともに、習得した知識を活用できるようにしている。 ◆ 図版 は、 本文との関連が的確 で、世界や日本の 地理的事象を具体的にイメージ できる資料が豊富に掲載されている。資料を読み取る活動が適所に設定されており、生徒が 楽しく地理を学びながら資料活用能力の向上 も図れるように工夫している。	⇒P.12 P.25 ⇒P.12-13 ⇒P.37 ⇒P.9 P.12-13
	◆ トライ・スキルUP・資料活用コーナー なども含めて、毎時間、 思考力、判断力、表現力等の向上 を図る場面を設定し、随所で 生徒が自分の言葉で表現 できるように構成されている。 ◆ まとめとふり返し では、習得した知識を活用し、 生徒が単元を貫く問いについて自分の考えをまとめ、議論してみよう で地理的な諸課題について 考察・構想 したことを論理的に説明したり立場や根拠を明確にして議論したりするなど、 言語活動 に関わる学習ができるようになっている。 ⇒ 議論してみよう(一覧/巻頭9)	⇒P.12-13 P.14-15 P.25 ⇒P.6-7 P.14-15 P.23 P.36
	◆生徒が学習の見直しをもったり学習を振り返ったりすることができるよう、教科書に 単元を貫く問い (「編の問い」、「章の問い」、「節の問い」)を構造的に設定している。 ◆各編・章の導入ページ 学習のはじめに 、各節の導入ページ 節の問いを立てよう では、活動を通して単元を貫く問いを立てたり学習を見直ししたりすることができるよう工夫している。また、何を学ぶかを捉えるための教材として、単元の学習内容を端的に捉えることができる図版を掲載し、 トライ や キャラクター の吹き出しで生徒が自ら問いを立てる活動を支援することで、生徒にとって 取り組みやすくなるよう に工夫している。 ⇒ 学習のはじめに(P.2-3、26-27、44-45、130-131、144-145、168-169、282-283) ⇒ 節の問いを立てよう(P.51、83、111、123、191、207、223、239、255、271など) ◆各単元末に設定している まとめとふり返し では、学習したことをまとめ、振り返る活動を通して 単元を貫く問いに答える活動 を設定している。 主体的に学習に取り組む態度の見取り を支援している。 ⇒ まとめとふり返し(P.24-25、60-61、116-117、128-129、200-201、216-217、264-265など)	⇒P.6-7 P.10-11 P.36 ⇒P.6-7 P.10-11 P.36 ⇒P.6-7 P.14-15 P.36
⇒ 学びに向かう力、人間性等 を養うために、どのような 創意・工夫 をしているか。	◆巻頭 地理的な見方・考え方?? では、地理的分野の学習に先立って 地理的な見方・考え方をおおまかにつかむ ことのできるイラスト等を掲載し、 五つの見方・考え方について丁寧に説明 している。 ⇒ 巻頭3-4 ◆本文ページには 見方・考え方コーナー を設け、その見開きの学習課題の解決に向けた手がかりとなる 地理的な見方・考え方 の例を示している。	⇒P.16-17 ⇒P.16-17

資質・能力の三つの柱を養うための創意・工夫

教科書検討の観点	内容の特色	本冊子の主な 関連箇所
⇒地理的な見方・考え方を働かせた主体的・対話的で深い学びを実現するために、どのような創意・工夫をしているか。	◆単元の学習における習得・活用・探究の学びの過程のなかで、 地理的な見方・考え方を繰り返し働かせる ようになっている。例えば、第2編第2章 世界の諸地域 ・第3編第3章 日本の諸地域 では、 節の問いを立てよう で単元の学習の見通しをもち、各ページにおいてそれぞれ適切な見方・考え方を働かせながら、 州・地方の概要を大観し 、そのうえで 主題学習・動態地誌的学習 を進め、最後に まとめとふり返し に取り組みすることで、 単元全体で主体的・対話的で深い学びを実現 するようにしている。 ◆話し合いなどの対話的な活動が想定される問いには 学び合いマーク を付している。	⇒P.6-7 P.8-15 P.36 ⇒P.13
③ 構成・配列		
⇒各単元の学習を行うのに、効果的な組織・配列になっているか。	◆各単元は 学習のはじめ にで単元を貫く問いを立てたり、学習を見通したりすることができるようにしている。本文ページでの学習を終えた後の まとめとふり返し では、単元を貫く問いに答える活動を行う。この構成を各単元で一貫させることで、生徒が学習を効果的に進めることができるようにしている。	⇒P.6-7 P.10-11 P.14-15 P.36
⇒構成や分量は適切か。	◆全体を第1編 世界と日本の地域構成 ・第2編第1章 世界各地の人々の生活と環境 ・第2編第2章 世界の諸地域 ・第3編第1章 地域調査の手法 ・第3編第2章 日本の地域的特色と地域区分 ・第3編第3章 日本の諸地域 ・第3編第4章 地域の在り方 の3編7章構成とし、詳細な学習に陥ることがないように、 学習内容の構造化と焦点化 を図っている。109時間の授業時数で学習が完結できるようにしており、これは、学習指導要領が示す地理的分野の授業時数115時間からいって妥当な分量である。	⇒P.40
⇒現代的な諸課題にかかわる内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆世界や日本の現代的な諸課題について、 生徒が主体的に考察 することができる教材を取り上げている。本文や写真に加えて、 地理+α や 持続可能な地域をめざして で地理的分野の学習を掘り下げ、 学習内容の理解を深めていく ことができる最新の地理的トピックスを紹介している。 ⇒P.50、66、73、75、82、94、103、154、164-165、190、265、270、286-291など	⇒P.10 P.13 P.23 P.28-33
⇒持続可能な社会、持続可能な開発目標(SDGs)にかかわる内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆巻頭 持続可能な社会と私たち で、SDGsの17の目標を取り上げるとともにカーボンニュートラルやSociety5.0の概念について解説し、SDGsの先の未来を見すえられるようにしている。 ⇒巻頭1-2 ◆持続可能な社会を実現するための諸課題を 地球的課題や地域の課題 として取り上げ、これらの諸課題を 自らの問題として捉え、その解決をめざして行動できる態度を培う ことができるように構成している。 ⇒P.45、66、72-73、94、102-103、110、115、182-183、246-247、250-265、270、284、290-291など	⇒P.22 ⇒P.22-23 P.32 P.43
⇒環境、資源・エネルギーにかかわる内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆地球規模の 環境問題や資源・エネルギーの問題 、日本における 環境問題や資源・エネルギーの問題 を様々な角度から取り上げ、これらの諸課題を 自らの問題として捉え、その解決をめざして行動できる態度を培う ことができるように構成している。 ⇒P.45、58-59、72-73、82、106-117、126-127、158-159、173、180-183、209など	⇒P.22-23 P.32 P.41
⇒災害・防災にかかわる内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆第3編第2章 日本の地域的特色と地域区分 では、様々な災害や防災・減災(自助・共助・公助)について、体系的に詳しく学習することができる。また、 具体的かつ実践的な活動 を取り上げることで、 生命や安全の確保に主体的に取り組む ことができるようにしている。 ⇒体系的に学習(P.150-151)、 具体的・実践的活動(P.152-155) ◆第3編第3章 日本の諸地域 では、 災害・防災に関する各地方の諸課題や災害からの復興 について学習することができるように構成している。 ⇒P.177、211、221、246-247、250-265など	⇒P.26-27 P.41 ⇒P.26-27 P.41
⇒伝統・文化にかかわる内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆我が国における 伝統・文化の現状と、それを守り、未来に継承していく人々の思いや取り組み について、随所に写真、 地理+α などを設定している。 ◆各地方に生きる人々の視点に立って、 各地に息づく文化 を取り上げるとともに、 現代文化についても積極的に取り上げ ている。 ⇒P.180-181、212-217、229、243、250-251、258-259、278-279など	⇒P.31 P.41 ⇒P.31 P.41
⇒我が国の国土と歴史への理解と愛情にかかわる内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆我が国や諸外国の国旗について、そこに込められた人々の思いや、象徴として 尊重され大切に扱われている ことを明記している。 ◆日本の領域についての学習では、 日本固有の領土である北方領土・竹島の領土問題 を的確に取り上げるとともに、 日本固有の領土である尖閣諸島には領土問題は存在していない ことを明記している。また、日本の領域をめぐる諸課題の解決に向けて、どのような 取り組みが必要かを考えさせる 内容になっている。 ⇒国旗(P.7)、 日本の領域(P.18-21)	⇒P.41 ⇒P.33 P.41
⇒平和や国際理解、多文化共生にかかわる内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆世界と日本の地域的特色の学習を通して、 多文化共生社会の重要性を認識し、我が国や郷土を愛する 心情を育てるとともに、 他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度 を育てる内容になっている。 ⇒P.59、73、75、82、87、122-123、125、129、181、195、245など	⇒P.28 P.30-31 P.33 P.41
⇒ウェルビーイングと関わる学びについて、どのような配慮がなされているか。	◆生徒が、社会を構成する当事者として、 個人と社会の幸せのために、多様性と包摂性のある持続可能な社会 をめざして、自ら主体的に考え、学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力、人間性等の涵養 ができるような教材が設けられている。	⇒P.22-23 P.24-25 P.26-27

教科書検討の観点	内容の特色	本冊子の主な 関連箇所
⇒個別最適な学び、協働的な学びについて、どのような配慮がなされているか。	◆ 個別最適な学び については、 指導の個別化の実現のため、教科書QRコンテンツ「確認小テスト」 など、生徒の学習到達度に応じて教師から柔軟に提供できる多様な教材を設けている。また、第2編第2章・第3編第3章各節の 節の問いを立てよう では、「節の問い」を解決するために、教科書に記載された例を参考にして「なぜ」を用いた問いを立て、州・地方の地域的特色の追究を進めることを想定しており、 学習の個性化が実現 できる。 ◆ 協働的な学び については、 学習のはじめに、資料活用コーナー、まとめとふり返りの自分の考えをまとめよう・議論してみよう など、読み取ったことを発表し合う場面や、生徒の多様な回答が可能な問いや活動に 学び合いマーク を付している。自分の考えをクラスメイトとともに練り上げていく対話的な活動を提案するとともに、こうした活動を積み重ねることで、 持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力を育成 するように配慮されている。 ⇒ 学び合いマーク(P.25、26、48、67、89、98、135、155、191、204、233、255、281など)	⇒P.6-7 P.10-11 P.18-19 ⇒P.13 P.14-15 P.23 P.25
⇒カリキュラム・マネジメントについて、どのような配慮がなされているか。	◆学校ごとの生徒の姿や地域の実情に合わせ選択・活用できるように 各種の教材が設けられている 。 ◆第3編では、第3編第1章 地域調査の手法 の調査結果を念頭に置きながら、第3編第2章 日本の地域的特色と地域区分 ・第3編第3章 日本の諸地域 の学習を進め、その結果を踏まえて第3編第4章 地域の在り方 で地域の課題を見出し、 地域の在り方を構築する 構成となっている。このような構成を取ることで、教科書の事例を参考にしながら、生徒の姿や地域の実情に応じた地誌学習や地域調査を進めることができるよう配慮している。 ◆第3編第1章 地域調査の手法 (事例地域：京都市伏見区)は、修学旅行の事前準備や当日の現地での活動など、教師や生徒が京都を訪れる際にも活用することができる。	⇒P.8-15 ⇒P.24 ⇒P.24
⇒ICTを活用して学習を効果的に進められるように工夫しているか。	◆教科書紙面に 二次元コード を掲載し、発行者Webサイト上で公開している動画や資料、ワークシート等のデジタルコンテンツである 教科書QRコンテンツ に生徒が主体的にアクセスできるようにしている。 ◆教科書QRコンテンツのある箇所には、教科書紙面に タブレットマーク を配置し、その内容を示している。	⇒P.12 P.18-21 ⇒P.13 P.18
⇒デジタル教科書・教材の発行予定はあるか。	◆教科書に完全に準拠し、拡大・リフロー、音声読み上げ、色の反転・配色設定、総ルビ表示といった特別支援機能を持つ 学習者用デジタル教科書 や、動画・アニメーション表示などの豊富なコンテンツを収録し、電子黒板や1人1台端末などで操作することができる 指導者用/学習者用デジタル教材 の発行が予定されている。	⇒P.35 P.44
⇒情報活用能力の育成について、どのような配慮がなされているか。	◆社会科におけるICT機器を利用した学習を促進し、 情報活用能力を育成 できるようデジタルコンテンツを提供している。 ◆地図・写真・文章などから様々な地理的情報を収集する能力、情報を読み取る能力、情報をまとめる技能を解説する スキルUP を系統立てて掲載し、 地理的技能の向上を図る ことができるよう工夫している。また、ICT機器の活用方法や地理院地図などのGISの利用方法が随所で取り上げられている。 ⇒ スキルUP(一覧/巻頭9) ◆ まとめとふり返し では、生徒が主体的に課題解決・探究学習を行うための教材を設けている。また、そのような学習に際して、情報を整理・比較などするための 思考ツール を取り上げている。	⇒P.18-21 P.41 ⇒P.25 ⇒P.6 P.14-15 P.36
⇒生徒の家庭学習に対して、どのような配慮がなされているか。	◆第2編第2章 世界の諸地域 ・第3編第3章 日本の諸地域 のすべての節の 持続可能な地域をめざしてに教科書QRコンテンツ「イントロダクションムービー」 が用意されている。州・地方の特色ある地理的事象を取り上げながら「 節の問い 」を立てるにあたっての 手立て となり、 学習の見通しをもつ ことができる教科書完全準拠の動画コンテンツで、 家庭での予習・復習にも利用 できるように工夫している。 ◆基礎的・基本的な知識に関する一問一答の問題である 教科書QRコンテンツ「確認小テスト」 が用意されている。答え合わせや誤答した問題の振り返りを生徒自身で行え、 家庭での予習・復習にも利用 できるように工夫している。 ◆巻末に 世界の国別資料・日本の県別資料 を設け、基本的な統計数値が参照できるようになっている。また、巻末に 用語解説 を設け、 地理的用語を5種類に区分してわかりやすく解説 するとともに、その用語が 重要語句 になっているページを参照できるように工夫している。 ⇒ 世界の国別資料(P.294~295) 、 日本の県別資料(P.296~297) 、 用語解説(P.298~301)	⇒P.19 ⇒P.19
⇒小学校社会科との連携や、生徒の発達段階に対して、どのような配慮がなされているか。	◆ 学習のはじめ にや本文、脚注の 連携コーナー において小学校社会科における地理的分野に関わる 学習内容を再確認 し、それを踏まえて 地理的分野の学習に取り組む ことができる構成になっている。 ⇒ 学習のはじめに(小学校で学習した内容/P.3、27、45、131、145、169、283) ⇒ 本文(P.136) 、 連携コーナー(P.6、14、18、58、72、146~152、160、161、214、226、242など) ◆ 地理的技能の習得のためのスキルUP の配列、 まとめとふり返し における 思考ツール や 議論してみよう の活動の配列は、 発達段階を考慮 したものとなっている。 ⇒ 思考ツール(フィッシュボーンチャート/P.61、77、233など) ◆教科書冒頭では トライ で生徒の興味・関心を高めながら 思考力、判断力、表現力等の向上を図る 活動をさせ、その後 資料活用 や まとめとふり返し における活動で徐々に 思考力、判断力、表現力等の内容を深めていく など、 発達段階を考慮 した構成としている。	⇒P.12 P.37 ⇒P.15 P.23

教科書検討の観点		内容の特色	本冊子の主な 関連箇所
他校種・他教科・他分野との接続	⇒歴史的分野や公民的分野との連携・地図帳の活用について、どのような配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ◆歴史的分野・公民的分野との関連を考慮した内容構成となっている。歴史的分野との関連では、地理的事象の歴史的背景を、歴史的分野との学習順序にも配慮しつつ確認できるようになっている。公民的分野との関連では、地球的課題・地域の課題とその解決策を追究し、公民的分野の学習につなげていくことができるようになっている。 ◆本文ページ脚注の連携コーナーなどで、生徒が歴史的分野や公民的分野の学習に関連する事項を確認、活用することができる。 ⇒連携コーナー(歴史・公民/P.20、68、80、86、172、208、278など)、まとめとふり返し(P.292) ◆教科書の随所に設定された作業学習の場面で地図帳の活用方法を取り上げ、教科書と地図帳を有機的に組み合わせた学習を展開できるようにしている。 ⇒トライ(P.5、6、7、9、11、14、22)、スキルUP(P.11、13、22)、まとめとふり返し(P.25)など 	⇒P.12 P.37 ⇒P.12 P.37
	⇒他教科との関連について、どのような配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ◆他教科と関連のある教材を多数掲載しており、地域や生徒の実態に合ったカリキュラム編成をすることができるようにしている。 ⇒スキルUP(グラフの読み取り方/P.55)など 	⇒P.37
	⇒道徳教育との関連から、取り扱う内容はどのようなになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ◆教科書全体が個人の尊重の考え方を基本理念として構成されており、取り上げられている教材は、人権尊重・男女共同参画などの観点から適切に選択されている。 ◆広い視野で考え、身近なところから課題を見出し、主体的・対話的な学び、地球的課題・地域の課題の追究、第3編第1章地域調査の手法・第3編第4章地域の在り方の学習などを通じて社会参画への関心や意欲を養い、持続可能な社会の形成に参画する態度を養えるようにしている。 	⇒P.37 ⇒P.10 P.24
④ 正確性及び表記・表現			
⇒文章および図版等の表現は正確か。	<ul style="list-style-type: none"> ◆本文や地図・写真・グラフ・しくみ図・イラスト等の図版類すべてにわたり、内容はもとより、用語の一つ一つまでも細心の吟味を払うとともに、きわめて正確かつ最新の資料を選択している。 	⇒P.12-13	
⇒カラーユニバーサルデザインや特別支援教育への対応や、表記・表現について、どのような工夫や配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ◆特別支援教育・カラーユニバーサルデザインの専門家の校閲を受け、すべての生徒が等しく情報を読み取ることができるように、配慮が行きわたっている。 ◆本文は、原則1授業時間＝見開き2ページとなっており、紙面は学習内容を理解しやすいように、授業や生徒の思考の流れに即したレイアウトで構成している。 ◆見開きページの右端には、インデックスを設けて、生徒が学習している単元を常に確認できる工夫がなされている。 ◆文字は、視認性の高さで実績のあるユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を使用している。 ◆本文は平易な文章で、抽象的・網羅的な記述を避けて、具体的に記述している。 ◆漢字の使用は、細心の注意を払い、小学校で未習の漢字や、固有名詞などは見開き2ページの初出にふりがなを付し、読みまちがいのおそれがあるものや人名等については教育漢字であっても極力ふりがなを付して、読み取りやすくしている。 ◆ふりがなは、大きめのゴシック体を使っており、視認性を高める配慮をしている。 ◆重要語句は太字にして、すべてふりがなが付されている。図版の解説も充実し、振り返しと広がり意識した参照ページが随所に付され、内容理解の促進が図られている。 ◆図版には番号を付すとともに、本文にも関連する図版番号を添えており、本文と図版を関連して読み取らせるようにしている。 ◆編・章ごとに単元の色を統一して示すことで、現在、学習している単元が常にかかるようになっている。 ◆地図・グラフ等の図版類は、カラーバリエーションに配慮した配色にするほか、形や模様、線の種類など、色以外の情報でも識別できるように配慮している。 ◆本文が22、26ポイントの2種類の拡大教科書の発行が予定されている。 	⇒P.35 ⇒P.12-13 ⇒P.12-13 P.34 ⇒P.34 ⇒P.12-13 ⇒P.12-13 P.34 ⇒P.34 ⇒P.12-13 P.34 ⇒P.12-13 P.34 ⇒P.34 ⇒P.35 ⇒P.35	
⑤ 造本			
⇒大きさ・判型について	<ul style="list-style-type: none"> ◆見開きページの情報量を充実させるため、ワイドなAB判が採用されている。 	⇒P.8-9	
⇒印刷の鮮明さについて	<ul style="list-style-type: none"> ◆文字や地図、写真、イラストなどの印刷は鮮明で、読み取りやすく、生徒の興味・関心を高めることができる。 	⇒P.12-13	
⇒耐久性や人や環境への配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ◆製本は、堅牢なあじろ織を採用し、針金縫じよりも大きく開き、かつ閉じにくい本になっている。また、良質で軽い紙を使用して重量をおさえるとともに、十分な強度で裏写りが少なくなるよう配慮され、表面も汚れを防ぐよう加工している。 ◆印刷は、植物油インキを使用している。また、製本には化学物質過敏症の原因物質は使用せず、再生紙を使用して人体や環境への影響を少なくしている。 	⇒P.34	
⇒装丁にはどのような工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ◆表紙の装丁は、世界各地・日本各地の地域的特色をとらえることができる写真を配置し、地理的分野の学習内容を想起させるものとなっている。また、人々の営みを読み取ることができる写真が掲載され、親しみやすく、かつ生徒の学習意欲を喚起するものとなっている。 	⇒表紙 P.34	